

「最新科学技術が社会と暮らしを変える！」

—その光と影を一緒に学びませんか—

近年、とみに進展がみられる最新科学—ロボット（人工知能）、自動運転車、IoT など高度ネットワーク、遺伝子組み換え等—コトバだけでもよく解らない、まして内容は？・・・そしてそれらは私たちの暮らし、社会をどう変えて、また本当に幸せにしてくれるのか？そんな疑問に専門の先生方が解りやすく説明してくれます。

期日 / 場所	講座タイトル	講師
5月20日(土) 12:30-14:30 市民交流センター 第2・3会議室	 <p>「ロボットが変える、私達の暮らし」 —ロボットで心身ともに若返り！?—</p>	関東学院大学教授(副学長) 博士(工学) 小松 督氏 (タダシ) 
5月27日(土) 12:30-14:30 同上	 <p>「クルマの未来」 —人と地球との共存は可能か—</p>	朝日新聞 編集委員 安井 孝之氏 
6月3日(土) 12:30-14:30 同上	 <p>「遺伝子組換え食品は安全でしょうか？」 —遺伝子組換え農作物の利用の現状と安全性評価—</p>	農研機構 生物機能利用部門 主席研究員 博士(農学) 田部井 豊氏 
6月10日(土) 12:30-14:30 同上	 <p>「インターネットの光と影」 —メディアからIoTまで—</p>	技術ジャーナリスト 元日経エレクトロニクス 編集長・元東大教授 西村 吉雄氏 

申し込み方法・問い合わせ先（申し込みは5月1日～10日まで）

記載内容：①講座名「最新科学技術が社会と暮らしを変える！」②住所③氏名④電話番号

申し込み先：NPO 法人ずし楽習推進の会（上記① - ④を記してハガキ・Fax・メールで）

〒249-0006 逗子市逗子4-2-11 Tel/Fax 046-871-7007

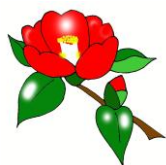
資料代¥500（4講座分）※応募多数時（定員60名）は抽選で決めさせていただきます。

Eメール z-gakushujuku@bz04.plala.or.jp URL <http://zushigakushu.jp/>



「最新科学技術が社会と暮らしを変える!」

—その光と影を一緒に学びませんか—



各講座要旨ご案内



期 日	講座タイトル&要旨	講 師
5月20日 (土) 	「ロボットが変える、私達の暮らし」 —ロボットで心身ともに若返り!?!—	関東学院大学教授(副学長) 博士(工学) 小松 督氏
	今日、ロボットの存在は身近なものになってきており、人間の形をしたロボットがいろいろなところで愛嬌を振りまいています。一方、AI(人工知能)の出現で人を超える能力をもつのではないかと、という不安もあります。今回は、進化を続けるロボットの正体と、これからの人との関係性についてお話しします。	
5月27日 (土) 	「クルマの未来」 —人と地球との共存は可能か—	朝日新聞 編集委員 安井 孝之氏
	クルマには二つの「原罪」と言われる。地球環境に負荷を与えるという罪と、事故で人を傷つけ、殺してしまうかもしれない罪だ。今、クルマは二つの原罪をあがなえる技術を得ようとしている。様々なエコカーや自動運転技術の開発が進み、ゼロ・エミッションと完全自動化が射程に入ってきたのだ。クルマの未来は人とも地球とも共存できる素晴らしいものになるのだろうか。その課題と可能性を考える。	
6月3日 (土) 	「遺伝子組換え食品は安全でしょうか？」 —遺伝子組換え農作物の利用の現状と安全性評価—	農研機構 生物機能利用部門 主席研究員 博士(農学) 田部井 豊氏
	世界における遺伝子組換え農作物の栽培面積は日本の国土の4.8倍に達し、日本には毎年1500万トン以上の遺伝子組換えトウモロコシやダイズ等が輸入されて、すでに大量に利用されています。しかし、遺伝子組換え農作物・食品に対して不安を感じる方も多くいると思います。そこで、遺伝子組換え技術と従来の品種改良を比較して遺伝子組換え農作物のメリットやその可能性、さらに安全性がどのように確認されているかについて紹介します。	
6月10日 (土) 	「インターネットの光と影」 —メディアからIoTまで—	技術ジャーナリスト 元日経エレクトロニクス 編集長・元東大教授 西村 吉雄氏
	インターネットの発展を3期に分けて考える。第1期の主役はメールとホームページである。伝統的通信メディアが便利になったものに過ぎなかった。それが2005年ごろからウェブ2.0と呼ばれるようになり、誰もが発信できるメディアへと発展した。SNSがこの時期を象徴する。伝統的メディアを、内容的にも経済的にも、脅かしつつある。次に、いま始まりつつあるのがIoT(Internet of Things)の時代である。あらゆるものがインターネットにつながる。自動運転や電力網制御もIoTの応用例となる。	